

2017年6月22日

各 位

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌交響楽団名誉指揮者 ラドミル・エリシュカの10月の来日について

札幌交響楽団（札幌）名誉指揮者のラドミル・エリシュカ（86歳）は、今年2017年10月の札幌との定期演奏会を、最後の来日公演とすることを決断いたしました。

今年3月14日に札幌東京公演を指揮したエリシュカは、チェコへ帰国後に体調を崩し、主治医の判断で、今後の日本などへの長旅を止められました。

しかし、エリシュカは「これで終わりにしたくない。医師の判断に反しても10月に札幌の皆さん、札幌の皆さん、日本の皆さんの前でもう一度指揮をしたい。10月に向けて体力を取り戻す努力をする」とコメント。今年10月に予定されている公演は行い、日本の音楽ファンへのお別れの挨拶とする考えです。

10月は、19、20日に大阪フィルハーモニー交響楽団、27、28日に札幌を指揮する予定です。

なお、札幌との曲目は、ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」が予定されていましたが、エリシュカの強い要望によりリムスキー=コルサコフの「シェエラザード」に変更します。「シェエラザード」は、エリシュカが2006年12月に初めて札幌を指揮した際に取り上げた、いわばエリシュカと札幌の出会いの曲です。その他の曲目に変更はありません。

札幌は、エリシュカが今年10月以降も指揮台に戻って来てくれることを願いつつ、今後も札幌の精神的支柱として「札幌名誉指揮者」という絆をつづけてまいります。

2017年10月 ラドミル・エリシュカ 来日公演予定

●大阪フィルハーモニー交響楽団 第512回定期演奏会

10月19日(木)19:00開演、20日(金)19:00開演 フェスティバルホール(大阪市)

曲 目) ドヴォルジャーク／伝説曲 op.59 より第1～4曲

ドヴォルジャーク／テ・デウム op.103

木下美穂子(S)、青山貴(B)、大阪フィルハーモニー合唱団

ドヴォルジャーク／交響曲第6番二長調 op.60

●札幌交響楽団 第604回定期演奏会

10月27日(金)19:00開演、28日(土)14:00開演 札幌コンサートホール Kitara (札幌市)

曲 目) スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲

ドヴォルジャーク／チェコ組曲二長調 op.39

リムスキー=コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」op.35 (曲目変更)

*これ以降の来日の予定はキャンセルされ、2018年5月12日に出演が予定されていた新日本フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会は、指揮者交代となります。

お問い合わせ 札幌交響楽団 TEL011-520-1771 事務局長 市川雅敏 事業部長 宮下良介

ラドミル・エリシュカ 名誉指揮者
Radomil Eliška, Honorary Conductor

1931年4月、チェコ共和国生まれの86歳。ブルノのヤナーチェク音楽アカデミーで指揮を学び、レオシュ・ヤナーチェクの高弟ブジェチスラフ・バカラに師事した。ドヴォルジャークの交響曲第9番「新世界より」の欧州初演をしたことで知られるチェコの名門オーケストラ、カルロヴィヴァリ交響楽団の首席指揮者・音楽監督として1969年から1990年まで活躍。1978年、プラハ音楽アカデミーの指揮科に招かれ、33年間教鞭を取り、そのうち17年間は教授を務めた。2001年から2013年まではチェコ・ドヴォルジャーク協会会長を務めた。客演指揮者としてはチェコ・フィルをはじめチェコのほとんどの楽団、プラハの春音楽祭にたびたび出演、ドイツ、オーストリア、スペイン、旧ソビエト等も訪れた。



2004年に初来日。

札幌交響楽団とは2006年に初共演（2006年12月8,9日第494回定期演奏会 曲目：リムスキー=コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」ほか スメタナ／交響詩「ボヘミアの森と草原から」 ドヴォルジャーク／交響詩「金の紡ぎ車」）ほとんど無名のままの札幌デビューであったが、2日公演の初日の評判により2日目の当日券に聴衆が殺到するほどの大きな話題を集めた。

この初共演での成功を受けて、2008年首席客演指揮者に就任。4月の就任披露演奏会の模様は早速ライブ収録CDとして全国に紹介された。翌年以降、ほぼ年2回の来札幌公演を重ねるなか、ドヴォルジャークの交響曲第5番から第9番まですべてとスメタナ「我が祖国」全曲をライブ収録CDとしてリリース。エリシュカと札幌交響楽団の組み合わせは高い評価を受け、道外からもKitaraへ聴衆が詰めかけるようになった。

2015年4月からは名誉指揮者を務め、2016年に待望のエリシュカ&札幌デビュー。さらなるファンを拡大し、2017年の東京公演も完売に及ぶ勢いをみせ、ますますその活躍が期待されていた。近年では、チェコ音楽を離れたプログラムでもその魅力を示し、2016年10月にチャイコフスキー後期3大交響曲を、2017年3月の札幌での定期演奏会と東京公演でブラームス交響曲全曲演奏のプロジェクトを完結させ、今後はベートーヴェンの交響曲に意欲をみせたところだった。

2006年12月の初共演から2017年3月までの10年あまりの間に、札幌交響楽団と40公演で共演、CD発売は11タイトルに及び、年内にも2タイトルの発売が予定されている。